

「いいたてオリンピック」は、タイタンビカスの一種で、夏の間、大輪の赤い花を次々に咲かせます。園芸企業『赤塚植物園』（本社・三重県津市）が開発し、東京2020オリンピック・パラリンピックに合わせて村を彩ろうと命名しました。当時イベントなどで苗が配布されたこともあり、多くの家庭や地域で今も大切に育てられています。写真は久保・外内地区の花畑。地区の皆さんが丁寧に手入れを続け、大きく育った株にたくさんの花が咲き、色鮮やかな景色が広がっていました。

